

知的所有権・先端技術をめぐる日・米・韓貿易摩擦 の政治過程-理論と実証-

著者	大矢根 聡
著者別表示	Oyane Satoshi
雑誌名	平成7(1995)年度 科学研究費補助金 奨励研究(A) 研究概要
巻	1995
ページ	2p.
発行年	2016-04-21
URL	http://doi.org/10.24517/00065927



知的所有権・先端技術をめぐる日・米・韓貿易摩擦の政治過程-理論と実証-

Research Project

All

Project/Area Number

07720049

Research Category

Grant-in-Aid for Encouragement of Young Scientists (A)

Allocation Type

Single-year Grants

Research Field

Politics

Research Institution

Kanazawa University

Principal Investigator

大矢根 聡 金沢大学, 法学部, 助教授 (40213889)

Project Period (FY)

1995

Project Status

Completed (Fiscal Year 1995)

Budget Amount *help

¥1,000,000 (Direct Cost: ¥1,000,000)

Fiscal Year 1995: ¥1,000,000 (Direct Cost: ¥1,000,000)

Keywords

貿易摩擦 / 知的所有権 / 先端技術 / 政治過程 / 日・米・韓 / 制度 / 国際レジーム

Research Abstract

第一に、半導体摩擦の事例については、政治過程を再構成して、全体像をつかむことができた。その際、新たな資料、情報が入手できたため、重要でありながらも従来不明であった、幾つかの事実関係を解明できた。また、ゲームを枠づける構造的要素の重要性を確認した。半導体摩擦の政治ゲームは、自由貿易レジームが状況化して、これに対応して国内の政策アイデア、既存のアクター間関係が流動化し、構造的変化が生じているなかで展開したのであり、この構造的要素と政治ゲームとを関連づけて把握する必要が明らかになった。すなわち、貿易摩擦は単なる紛争ではなく、自由貿易レジームと国内政治体制の変容過程を構成するものだったのである。この点に関し

ては、国際政治学会の部会において、研究成果の一部を報告した。

第二に、コンピューター・ソフトウェア摩擦の事例について、資料、情報の収集を進めた。その結果、この事例についても、従来不明であった事実関係を確認できた。其れに基づいて、政治過程の全体像を捉える作業に着手した。

第三に、第一・二点との関連において、分析のための理論的検討を行った。関連文献を収集して、従来多用されてきた政策決定過程論(官僚政治モデル)を批判的に検討し、そのうえで新たな制度論、国際レジーム論の有効性を検討した。その結果に基づいて、事例分析のための分析枠組みを試論的に設定した。

第四に、以上の研究成果を踏まえて論文を執筆し、『金沢法学』に連載を開始した。第一回連載論文(序章、第一章)は、問題の設定、事例の位置づけ、自由貿易レジームの態様などを扱っている。

Report (1 results)

1995 Annual Research Report

Research Products (1 results)

All Other

All Publications (1 results)

[Publications] 大矢根 聡: "「構造」問題をめぐる貿易摩擦の分析(1)-政治決定過程・制度・国際レジーム-" 金沢法学. 38. 1-109頁 (1996) ▼

URL: <https://kaken.nii.ac.jp/grant/KAKENHI-PROJECT-07720049/>

Published: 1995-03-31 Modified: 2016-04-21